

## 「社会健康医学」基本構想検討委員会（第3回）議事次第

日時：平成28年10月24日（月）

14:00～15:30

場所：ホテルアソシア静岡15階  
ベラビスタ

○ 開会

○ 議題

- 1 静岡県が健康寿命延伸のために取り組む項目について
- 2 社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方について
- 3 その他

○ 閉会

### 資料

#### 議事次第

#### 「社会健康医学」基本構想検討委員会委員名簿

- 資料1 「社会健康医学」基本構想検討委員会（第3回）について
- 資料2 静岡県が健康寿命延伸のために取り組む項目
- 資料3 社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方
- 資料4 保健医療分野におけるICT活用推進懇談会提言（概要）（宮田裕章委員提出資料）
- 資料5 健康寿命の更なる延伸のために疫学はなぜ重要か（宮地良樹委員提出資料）

参考資料1 「社会健康医学」基本構想検討委員会 これまでの論点整理

参考資料2 「静岡県の健康寿命をのばそう！シンポジウム」について

## 「社会健康医学」基本構想検討委員会委員名簿

(敬称略、50音順)

氏名	所属・役職等	備考
ほんじよ たすく 本庶 佑	静岡県公立大学法人理事長	委員長
さ こ よしやす 佐古 伊康	しずおか健康長寿財団理事長	
た な か いっせい 田中 一成	静岡県立病院機構理事長	
つ る た けんいち 鶴田 憲一	全国衛生部長会会長 (静岡県理事(医療衛生担当))	
と くら な が こうじ 徳永 宏司	静岡県医師会副会長	
な か や ま た けお 中山 健夫	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 健康情報学分野教授	
み や た ひろあき 宮田 裕章	慶応義塾大学医学部医療政策・管理学教授 東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座教授	
み や ち よしき 宮地 良樹	滋賀県立成人病センター病院長 (京都大学名誉教授)	
もちづき りつこ 望月 律子	静岡県訪問看護ステーション協議会会長	
やまもと せいじ 山本 清二	浜松医科大学理事・副学長 (教育・産学連携担当)	
やまもと としひろ 山本 敏博	静岡県社会福祉法人経営者協議会会長	

## 「社会健康医学」基本構想検討委員会（第3回）について

### 1 前回（第2回）の議論

- 健康長寿を推進するためには予防医学の視点からのいくつかの研究が必要。現状では、県内の大学等で散発的に研究が行われているが、静岡県の健康寿命延伸に着目した体系的な取組が必要である。
- 全国の大学・研究所等と連携し、様々な情報をまとめて予防医学の研究を行いながら、現場で働く人材を育成する、社会健康医学の拠点が必要。

### 2 第3回の検討項目

#### (1) 静岡県が健康寿命の延伸のために取り組む項目について

静岡県の健康寿命を更に延伸するために必要な取組とは具体的にどのようなもので、取組に期待される効果は何か、議論する（ビッグデータの活用、コホート研究など）。

(資料)

- ・ 静岡県が健康寿命延伸のために取り組む項目……資料2

#### (2) 社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方について

静岡県の健康寿命延伸のための取組を行い、県の施策へ反映するための拠点の目的、役割について議論する。

(資料)

- ・ 社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方……資料3

## 静岡県が健康寿命延伸のために取り組む項目

第1回、第2回での各委員からの意見を踏まえ、社会健康医学の取組項目や社会健康医学の取組から得られるもの、県民に還元できるものについて、以下のとおり整理した。これらについて、さらに御議論いただきたい。

## 社会健康医学の取組項目（例）

取組項目	期待される効果
<p>○医療ビッグデータの活用 (健康情報分野、医療統計分野など) (第1回参考意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療・介護の様々なデータを繋げて分析することによる県民の身体・社会・行動等と疾病・健康との因果関係の分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康データの分析結果の還元により、県民自らの健康に関心を持たせる。</li> <li>科学的視点の「見える化」を普及し、<u>地域特性や個人データを踏まえた健康づくり、健康管理を強化</u>する。</li> </ul>
<p>○静岡県の健康長寿の要因分析 (コホート研究、医療疫学分野など) (第1回参考意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緑茶成分を摂取することと、緑茶を何杯も飲むほどゆったりした生活を送ることの健康寿命への影響比較</li> <li>疾患の発生頻度や健康課題に地域性があることの要因分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣や地域性など、<u>県民の生活環境まで考慮したきめ細やかな健康増進施策</u>が実現できる。</li> <li>予防医学や健康課題を解決する治療など、<u>健康寿命の延伸に取り組む医師の確保や医療の提供が図られる</u>。</li> </ul>
<p>○静岡県特有の疾病要因の分析 (コホート研究、ゲノム・遺伝医療分野など) (第1回参考意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脳梗塞のリスクを下げる効果があるといわれる茶カテキンを多く摂取する静岡県民の死因に脳血管関係疾患が多いことの要因分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活や生活態様と、疾病の因果関係が解明されることで、<u>予防医学や地域医療の質の向上が図られる</u>。</li> <li>予防医学を活用した<u>本県独自の疾病予防対策</u>により、本県の健康寿命の延伸を図る。</li> </ul>
<p>○生涯を通じた健康管理の分析 (予防医療分野、ゲノム・遺伝医療分野など) (第2回参考意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>胎児期（母胎感染や胎盤血流、脳の発達など）から成人期までの諸要素が健康寿命に与える影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育、健康状況などの様々な要因を体系的に整理し、<u>生涯の年代別ステージに応じた健康寿命延伸施策を展開</u>できる。</li> </ul>

## 社会健康医学の取組を推進するための拠点のあり方

資料2の議論を踏まえ、静岡県が取り組むべき拠点の目的や役割について、御議論いただきたい。

### 1 拠点の目的

- (1) 本県の健康長寿の取組の体系化や、社会健康医学の科学的な知見や取組成果を施策へ反映する。
- (2) 健康寿命延伸に取り組む地域のリーダーや研究者となる人材を育成する。
- (3) 社会健康医学の取組推進により、医療・健康水準の向上と、ヘルスケア産業の振興を図り、県民満足度を向上する。

### 2 拠点の役割

#### (1) 社会健康医学の取組

静岡県の健康寿命を更に延伸するため、県内外の大学や研究所、医療機関と連携し、社会健康医学の取組を推進する。

#### (2) 人材育成

社会健康医学の取組を推進するため、高度な専門知識を有する人材を育成する。

#### (3) 施策提言など

静岡県の健康寿命を更に延伸するための具体的な施策の提言

#### (4) その他

# 1. 保健医療分野におけるICT活用推進懇談会 提言

## ① 背景

- ◆ **これまで保健医療分野でのICT活用は、サービス自体の質の向上には不十分。**
  - ・保健医療分野でICTの活用によって創出すべき「価値」が共有されていないことが課題。
  - ・ICT活用の「たこつぼ化」が進行。
- ◆ **「保健医療 2035」で「情報基盤の整備と活用」を新たな保健医療システムのインフラの一つに位置づけ。**
  - ・このインフラをいかに実現させていくかが「保健医療 2035」実現の鍵。

## ② 提言の基本的な考え方

- ◆ **ICTの技術革新を徹底的に取り入れる。**
  - 限られた財源を効果的・効率的に活用し、保健医療サービスの質を最大化。
- ◆ **ICTの活用は、患者・国民にとって真に価値のあるものとなる必要。**
  - 「価値不在の情報化」から「患者・国民の価値主導」に切り替え、ICTの活用のあり方を考えていく。
- ◆ **患者・国民本位のオープンなインフラを整備し、患者・国民や医療機関等、産官学のデータ活用を促進。**

提言では、ICTを活用した「次世代型保健医療システム」の姿と、これを構築するためのアクション・工程表を提示。

## 2. 一人ひとりに寄り添った保健医療へ

- 本提言で実現していく患者・国民にとっての価値 -



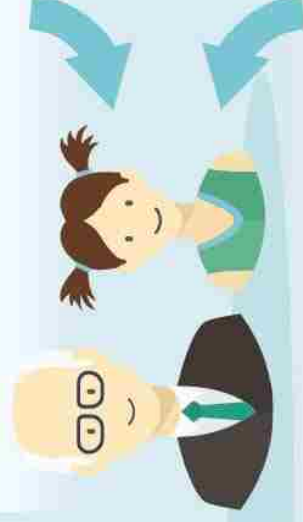
### ビッグデータ活用や AIによる分析

現在、診断や治療が難しい疾患でも、個人の症状や体質に応じた、迅速・正確な検査・診断、治療が受けられる。



### ICTを活用した 遠隔診療や見守り

専門の医師がいない地域の患者や、生活の中で孤立しがちなお年寄りでも、専門医療や生活支援が受けられる。



### 地域や全国の 健康・医療・介護情報ネットワーク

どこでも誰でも、自身の健康・医療・介護情報が医師などに安全に共有され、かかりつけ医と連携しながら切れ目ない診療やケアが受けられる。検査や薬の重複も避けられ、負担も軽減される。

### ビッグデータ活用による イノベーション

疾患に苦しむ様々な患者に、最適な治療や新たな薬が届けられる。魅力的な健康づくりサービスが生まれ、自身に合ったサポートが受けられる。

